

令和 4 年度 墨田区立小梅小学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 11 日

学 校 目 標	○深く考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
目 指 す 学 校 像	小梅小学校に関わる人にとって「魅力ある学校」を創造する ～ 子供たち一人一人が輝き、「夢」や「希望」がもてる学校へ ～ ◇児童が、自らの成長を実感できる学校 ◇教師が、児童の成長に手ごたえを感じられる学校 ◇保護者が、児童の望ましい変容を見ることが出来る学校 ◇地域が、学校との結びつきを実感できる学校
目 指 す 子 供 像	①意欲をもって自らが学び、地道に努力し、自分の考えを高めようとする子 ②自分を大切にし、友達のよさを認め、相手の気持ちを考えて行動しようとする子 ③心身ともに健康で、最後まで粘り強く取り組む子
目 指 す 教 師 像	明るく元気で爽やかに毎日を送れる、小梅小学校の教師集団であり続けたい 1. 45 分の授業を毎時間大切に、今日を充実して生きる今日師 2. 児童の心に寄り添い、思いを受け止め心を開き、気持ちを通じ合わせられる響師 3. 毎日の児童の成長を、地域・保護者と共に喜び、共に歩み続ける共師 4. 教育公務員として信念をもち、責任ある行動をとり、高く強い志をもった強師 5. 学校運営を常に自己の課題としてとらえ、組織で力を合わせられる協師 6. 1 日 1 日の指導を振り返り、確実に自己を高め努力し、児童の手本となれる鏡師 7. 児童・保護者・地域住民から尊敬され慕われる教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項 目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本の確実な習得」を図るには、くり返し学習が必要である。学力向上タイム、学習ふり返し期間（年 2 回）は学力向上のための重要な取組と捉え、全クラスで実施する。 教員の資質能力向上のため、校内研究や OJT 等での充実した研修を行っていく。 学力向上の取組（校長講話作文、俳句作り、よむ YOMU ワークシート、朝学習、家庭学習、自主学習、放課後学習）は、継続して定期的に行っていく。 タブレット端末を活用した授業を毎日行い、自分で調べたり、まとめたり、友達の考えと共有して新たな考えを得たりするような主体的な学習へとなる授業展開を工夫していく。 「小梅学習スタンダード 7」を見直し、家庭と共有しながら内容の徹底を図る。 	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーター、養護教諭、特別支援教室専門員、巡回指導教員、SC との情報交換・協議を密に行い、個に応じた適切な指導ができるようにする。 特別支援委員会を毎月行い、支援を要する児童への具体的な 	A	A

様式 4

			<p>支援の在り方を共有し、特別支援教育の研修を充実させ、教職員の資質能力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週金曜日を定例会と位置付け、SC、特別支援教室専門員を交えて情報交換を行うとともに、同一歩調での指導を徹底する。 		
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	C	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止に努めながら、異校種交流を実施できるよう、幼小中一貫教育の推進のための更なる工夫が必要である。 年間通じて、夢や目標をもつことの大切さを講話等で伝えたり、実現のために努力している子供を褒め称えたりして自尊感情や自己肯定感を醸成していく。 	A	A
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究（研究授業3回）、授業観察（3回）を通して、授業力を高めるための研究や指導を行っていく。 タブレット端末の効果的な活用方を校内で共有し、全クラスが有効な活用ができることを目指す。 計画的なOJT（年10回以上実施）や指導教諭の授業参観、区小研を通して指導力の向上に努める。 	A	A
	<p>学校関係者評価委員会の意見等</p> <p>学力向上の取組を全校で取り組んでいることが学力向上につながっている。タブレット端末を十分に活用しており、新しい教育の取組を感じる。特別な支援を必要とする子供に対しての組織的な支援は引き続き丁寧に行っていただきたい。</p>				

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートを年3回実施し、早期発見に努める。 「トラブルの原因や背景、児童からの聞き取り、児童相互の言い分等を正確に聞き取ること」、「今後の学校の対応の仕方等、保護者に納得のいく説明を行うこと」以上のことを学年（複数）で確実に対応する。 困難な課題については管理職に相談し、その日の内に保護者に伝えることを原則として、迅速に対応していく。 校長講話、学校だより、いじめ防止授業地域公開講座等、保護者向けの「いじめ防止に向けた学校の取組」を年間3回以上発信し、いじめに対する取組の理解・協力を得る。 登校しぶり傾向の児童の要因を見付け、不登校になる前に、学校での居場所づくりとSCやSSW、子育て支援総合センター等も含めた組織的な対応をしていく。 	A	A
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣「4つのあ（挨拶・集まり・後片付け・安全）」の確立のために、全教職員が同一歩調で確実に指導していく。 毎週の校長講話を通して、自己の生活を振り返ることができるようにする。 人間関係構築のため、毎回同じ学年ではなく、前期と後期や行事毎に、学年を替えて、たてわり班活動や異年齢交流の活動ができるようにする。 	A	A
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のために「学校の新しい生活様式」の徹底を図り、子供の安全を守ることができた。 「人権プログラム」、「安全プログラム」、「いじめ防止プログラム」、「使命を全うする」を随時活用し、組織的対応を原則としていく。 年間11回の避難訓練を行うとともに、様々な想定の下、緊張感をもって取り組めるようにする。 朝の会・帰りの会での「一声指導」を実施していく。 自然災害が多発する日本の現状を踏まえ、「自分の命は自分で守る」体験を、地域・PTAと連携をとりながら実施していく。 	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<p>「安全・安心」を踏まえた経営方針が徹底されている。新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着き、5類になる来年度は、地域・保護者と連携した防災教育の推進に努めてほしい。土曜授業の際、おやじの会の見守り活動、朝の挨拶を行っているので、地域の方への挨拶も児童が元気にできるような今後を期待したい。</p>			

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「よい生活の習慣化」、「安心・安全」を基調とした学校運営を、教職員間で共通理解を図りながら推進していく。 ・様々な機会を繰り返して、教職員・保護者・地域に対し経営方針を周知していくようにする。 	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	B	<p>【学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区学習状況調査では、区の平均点より全学年高く、目標値においては、5ポイント以上の高さであった。本校は、B層の割合が5割強のため、さらに学力向上を目指すには、着実な見直しや時間配分、文章題への解答等、正確に答えられるような学習となるようにする。 ・CD層の児童には、放課後学習等で、個別の課題に即して取り組み、「分かった」、「できた」という満足感を味わわせ、学習意欲へとつなげていく。 <p>【体力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「反復横跳び」、「20mシャトルラン」、「立ち幅跳び」は、東京都の平均より上回っている一方で、「握力」、「ソフトボール投げ」が下回っている学年が多かった。「一学級一取組」や「体力向上タイム」で握力、投力向上の充実に努める。 	A	A
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のタブレット端末を活用した授業展開も日常化している。また、一人1台タブレット端末が文房具のように扱え、効果的な学習の道具となるように研修を充実していく。 ・今年度は、図書館地域ボランティア「うめのみ」による対面と動画での読み聞かせを行ってもらった。子供たちは楽しみにしており、引き続きお願いしていきたい活動である。 ・今後、学級増により多目的室などを教室に変えていくようになる。先を見通した、効果的な教室の配置計画をしていく。 	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	先生方が協力し合って、行動されており、よい学校運営がなされている。読書活動を頻繁に行っていて、素晴らしい。校長のリーダーシップに期待したい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分散型方式で、土曜授業参観を毎月実施することができた。月1回学校での児童の様子や授業の内容が分かり安心したという保護者からの声を聞いた。 ・ホームページやFacebookの更新・学校だより・保護者会の内容の充実・正門掲示板の更新等、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく発信するための工夫を更に行っていく。 ・不審者情報、感染症に関する対応など、COCOO学校連絡を活用して適度に配信し、学校情報・児童の安全情報を保護者に迅速正確に伝えていく。 	A	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のまだまだ制限のある学校生活であっても、「子供は楽しく学校に通っている」というアンケート項目に対して、95%の保護者が肯定的な意見であった。保護者の理解・協力があっての結果である。協力・理解をいただいていることに感謝を伝えていく。 	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	保護者が分け隔てなく、教員とコミュニケーションが円滑にとれているのは、学校運営で大切なことである。子供たちのために、学校・家庭・地域が連携して取り組める体制を更に推進していただきたい。			

様式 4

2 令和4年度学校評価のまとめ

コロナ禍でまだまだ制限がある中ではあるが、「子供は楽しく学校に通っている」というアンケート項目に対して95%の保護者が肯定的な意見であった。また、「小梅っ子は、『思いやりのある子』に育っている」90%、「保護者会の内容・説明は適切である」91%の項目に対しても高い評価を得られた。「学校に対する信頼はかなり厚く、その信頼に応えられる教育を推進していかなければならない。

その一方で、「体力づくりに励み、『たくましい子』に育っている」の項目は、65%と低かった。これは、体育発表会の種目、休み時間の校庭での遊びの回数等が少なく、運動量の少なさを御心配されての結果である。体力向上タイムやリバーサイドランニング等新たな取組は行っており、体力テストの結果も東京都の平均をおおむね上回る結果となった。体力向上の取組が分かるように情報を発信していくとともに、休み時間の遊ぶ場所、時間の十分な確保を工夫し、運動量を多くとれるようにしていく。

今後も、子供・保護者と地域・教職員ともに「三方よし」の評価を目指して、開かれた学校と家庭・地域との連携を大切にしながら質の高い教育の推進に邁進していきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立小梅小学校 校長 増渕 裕美

公印